

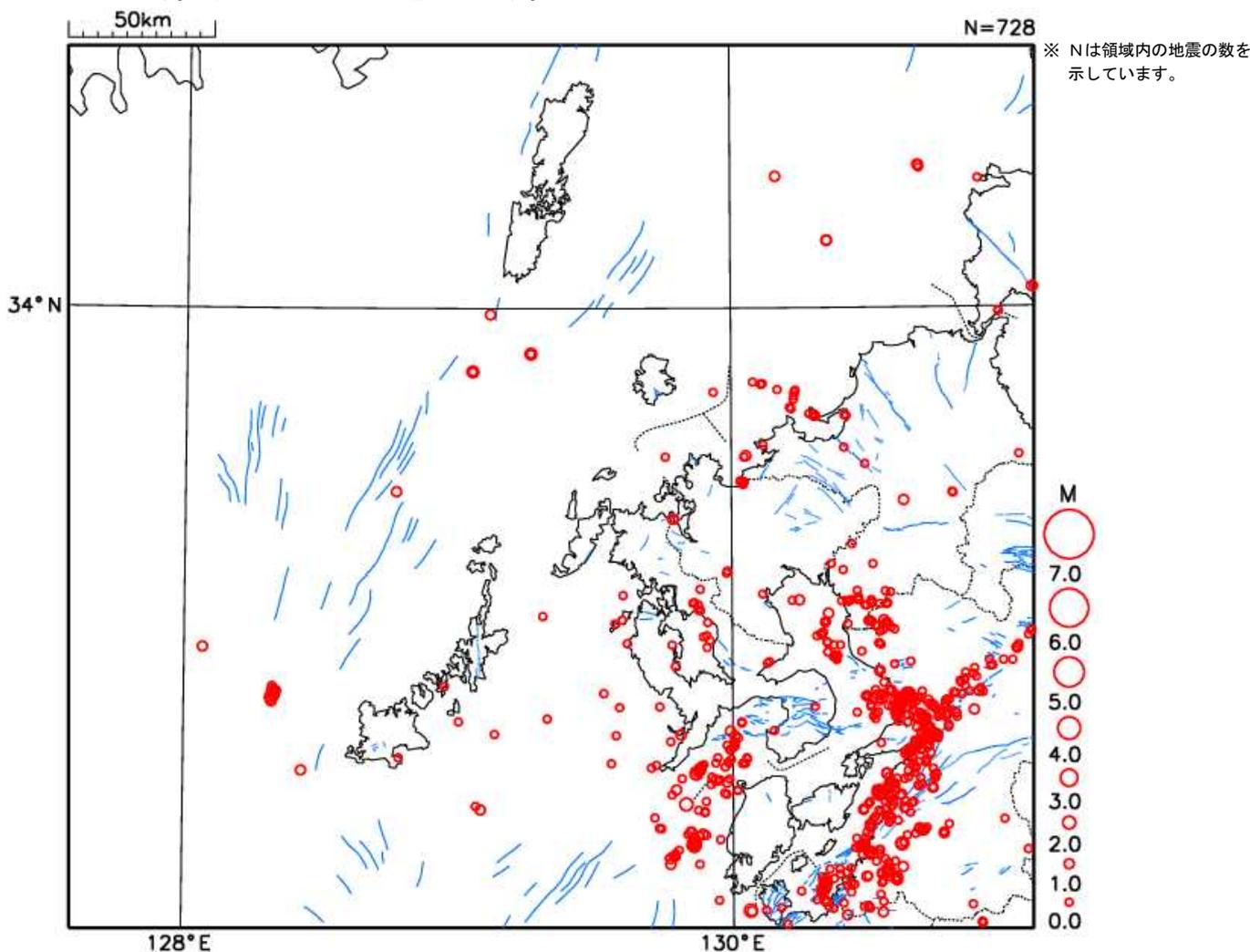
長崎県の地震活動概況 (2021年10月)

令和3年11月9日

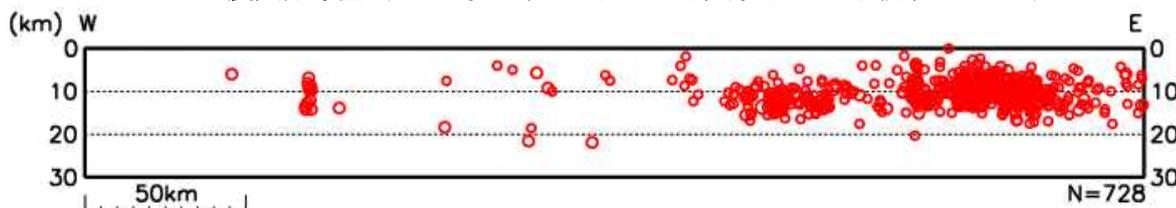
長崎地方気象台

地震活動の概況 (2021年10月)

10月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は1回でした(震央分布図領域外の1回。9月は3回)。詳細は2ページのとおりです。



震央分布図 (2021年10月1日~31日、深さ30km以浅、M≧0.0)



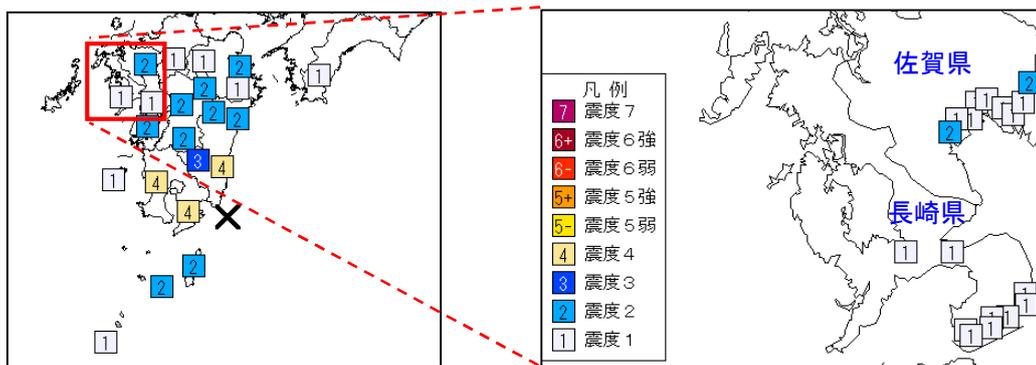
断面図 (2021年10月1日~31日、深さ30km以浅、M≧0.0)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す(活断層のデータは新編日本の活断層による)。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- ※ 2020年9月1日から10月23日、2021年1月9日から3月7日、及び4月19日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、これらの前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)がみられることがあります。

大隅半島東方沖(1頁震央分布図領域外)

6日17時12分に大隅半島東方沖で発生したM5.4の地震(深さ43km)により、宮崎県及び鹿児島県で震度4を観測したほか、九州地方から四国地方にかけて震度3~1を観測しました(図1)。長崎県では、諫早市及び南島原市で震度1を観測しました。

今回の地震の震源付近(図3領域b)では、2018年6月12日にM5.6の地震(深さ28km、最大震度4)が発生し、長崎県では、諫早市、雲仙市、島原市及び南島原市で震度1を観測しました(図2~図4)。



10月6日17時12分 M5.4
図1 震度分布図(左:地域別、右:観測点別、×:震央)

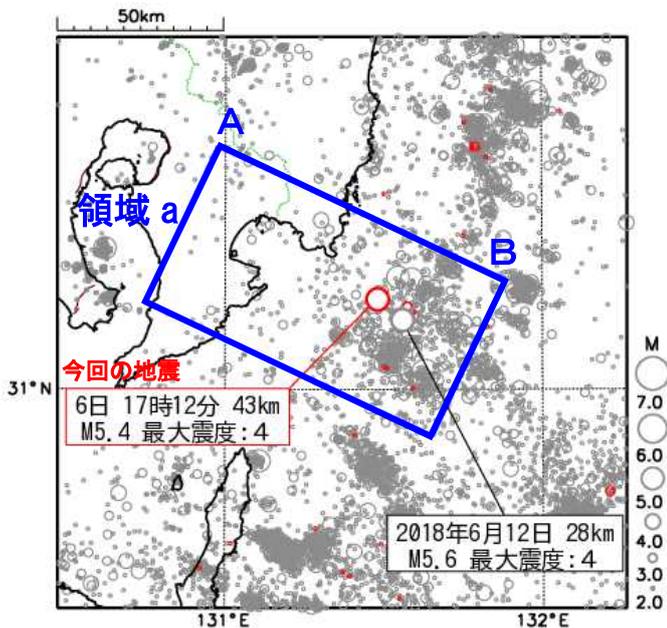


図2 震央分布図
(1997年10月1日~2021年10月31日 深さ0km~90km M≥2.0)
※2021年10月1日以降の地震を赤で表示

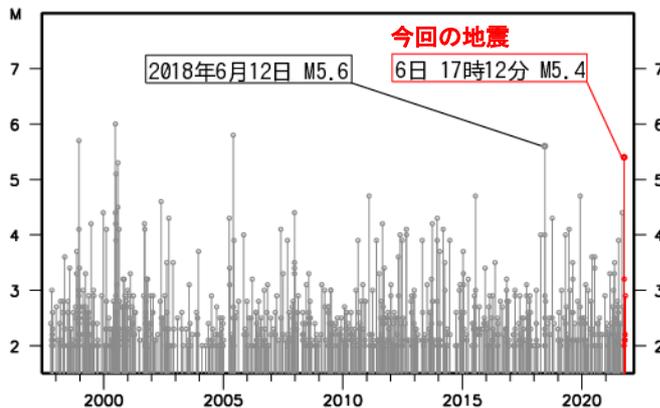


図4 図3領域b内の地震活動経過図
1997年10月1日~2021年10月31日、M≥2.0

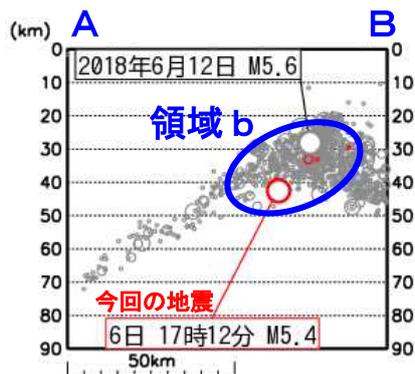


図3 図2領域a内の断面図(A-B投影)

長崎県内で震度1以上を観測した地震の表（10月1日～31日）

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2021年10月06日17時12分 震度 1	大隅半島東方沖	31° 14.7' N	131° 28.8' E	43km	M5.4
* 諫早市多良見町*, 諫早市森山町*, 南島原市口之津町*, 南島原市南有馬町* 南島原市北有馬町*, 南島原市西有家町*, 南島原市布津町*, 南島原市深江町* 南島原市加津佐町*					

注) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
 *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

お 知 ら せ
長 崎 地 方 気 象 台

南海トラフ地震 ～その時に備えて～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）と昭和南海地震（1946 年））が発生してから 70 年以上が経過し、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

次の南海トラフ地震はいつ起きてもおかしくありません。

想定される南海トラフ地震が発生した場合、最大震度 7 の揺れ、最大 30m 超の津波が襲い、関東から四国・九州にかけて極めて広い範囲で著しい災害が生じるおそれがあります。特に沿岸部では津波による甚大な被害が生じる可能性があります。

気象庁では、南海トラフ沿いで異常な現象を観測した場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価した場合などに、**南海トラフ地震臨時情報**や**南海トラフ地震関連解説情報**でお知らせします。

ただし、南海トラフ地震の発生には不確実性を伴うことから、情報が発出されても地震が発生しない場合や、情報の発表がないまま突発的に南海トラフ地震が発生する場合も考えられます。このため、南海トラフ地震に適切に備えるためには、日頃から避難場所・避難経路の確認などの地震への備えをしておくことが重要です。

自らの命、大切な人の命を守るために、今から地震への備えをしましょう。

南海トラフ地震に関することは、以下の気象庁ホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/nteq.html>

また、次のリーフレットもご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html>

(発表条件)

南海トラフ地震 臨時情報		
キーワード	調査中	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ■ 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
	巨大地震警戒	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■ 想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
	調査終了	<ul style="list-style-type: none"> ■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合
南海トラフ地震 関連解説情報		<ul style="list-style-type: none"> ■ 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ■ 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし臨時情報を発表する場合を除く）

南海トラフ地震が発生したら・・・



地震発生 揺れを感じたらまず身を守る行動を

突然の揺れ

家庭で 頭を保護して机の下など頑丈な場所に隠れる

屋外で ブロック塀や電柱、自動販売機など、倒れる危険のある場所から離れる

沿岸部で 津波の発生・襲来に備えて、安全な場所に避難する



地震は一度では終わらないかも

～時間差で起きる場合も～

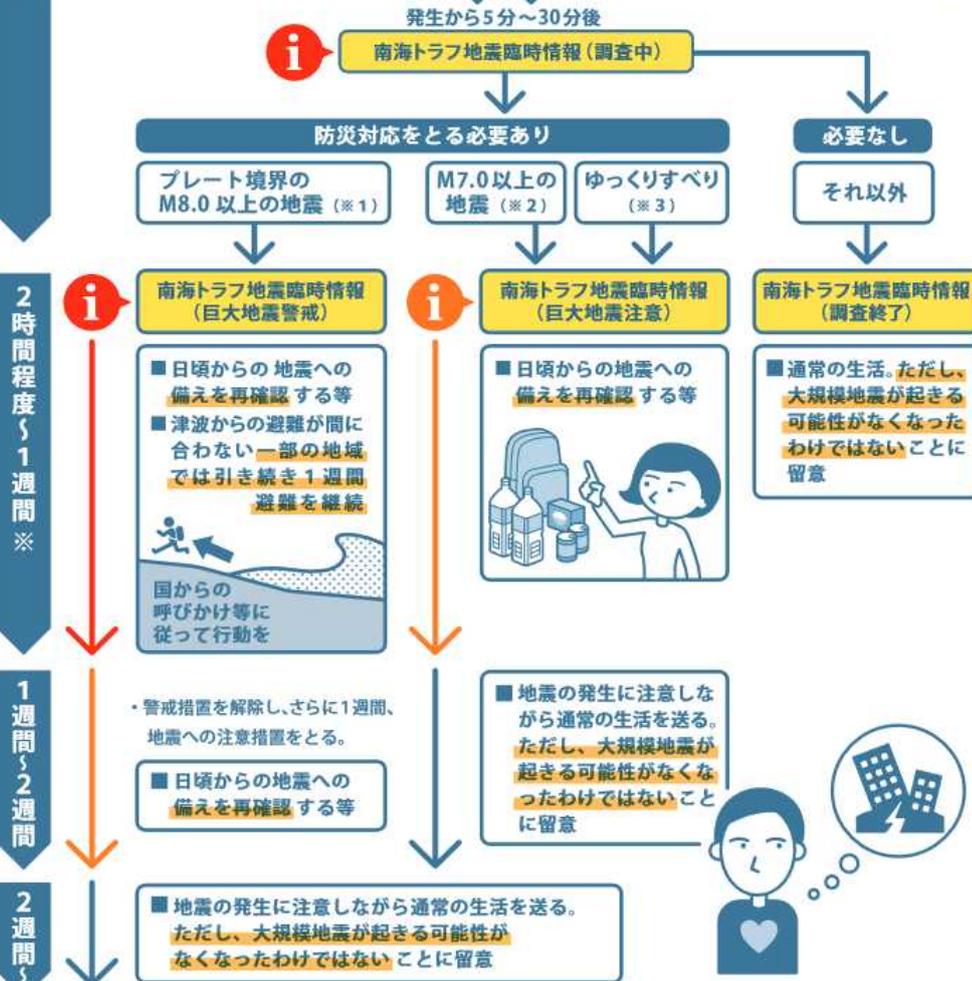
〔過去事例〕



発生後

南海トラフの想定震源域またはその周辺で M6.8以上の地震が発生

南海トラフの想定震源域のプレート境界面で 通常とは異なる ゆっくりすべりが発生した可能性



※ゆっくりすべりが観測された場合は、それが収まったと評価されるまで

※1 想定震源域のプレート境界で M8.0以上の地震が発生
 ※2 想定震源域、またはその周辺で M7.0以上の地震が発生 (ただし、プレート境界の M8.0以上の地震を除く)
 ※3 住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合など